

年 組 名前:

甲府の保存会 3月に都内まつりで披露



スタッフと意見を交わす保存会メンバー

—甲府・南公民館

日本最古の人形芝居といわれ、重要無形民俗文化財に指定されている甲府市の田楽芸能「天津司の舞」が3月、全国の特徴ある地域芸能を紹介する「第25回地域伝統芸能まつり」（同実行委主催）で披露される。東京都内で開かれる本番に向け、保存会メンバーが26日、市内の公民館でリハーサルを行った。

天津司の舞は甲府市小瀬町の天津司神社に伝わる人形による舞。人形による田楽は現存する唯一のもので、9体の人形が湖の上で優雅に舞う様子を再現している。毎年春の祭りで奉納されていて、

「祭礼以外で披露する機会はめったにない」（保存会）という。

今回のまつりのテーマは「源」。芸能の源に触れ、日本文化の未来に思いをはせる機会にしようと、主催者側が

保存会に依頼し、出演が決まった。県内から出演するのは2014年の西嶋神楽（身延町）以来、3回目という。

本番に向け、保存会は今月26日には甲府・南公民館でリハーサルを行った。

白い幕を円形に張った「お船囲い」の位置や舞台の大きさなどについてスタッフと意見を交わした後、実際に舞を披露。本来は9体の人形で披露するが、まつりでは縮小して舞うため、7体のレプリカ人形を用意し、太鼓や笛の音に合わせて舞った。

保存会の松本紀一会長は「たくさんの人に天津司の舞を知ってもらいたい機会。貴重な体験ができるので楽しみ」と話した。

まつりは3月2日に東京都内で開催され、天津司の舞のほか、阿波おどり（徳島市）や御陣乗太鼓（石川県輪島市）などが披露される予定となっている。

天津司の舞 全国に発信

市内の公民館でリハーサルを行った。

〈松本飛馬〉

(2025年1月27日付 山梨日日新聞 18面)

問1

日本最古の人形芝居といわれている「天津司の舞」は、どこにある何神社の舞ですか。

.....市の.....神社

問2

地域伝統芸能まつりでの披露は、本来の舞とは何が違いますか。

.....

問3

地域伝統芸能まつりでは、「天津司の舞」以外に、どのなにかが披露される予定ですか。

.....県の.....市の.....

.....県の.....市の.....